

# 飼料作物等の土壌診断を活用した栽培と慣行栽培との生育比較

## 状況

### 島根県 海士町 海士方地区

地区概要: 農地面積206.00ha(うち耕作放棄地5.00ha)  
 荒廃の理由: 有効(換金)作物の不在、営農意欲の低下  
 荒廃の程度: 雑草繁茂、樹木侵入。農業機械・重機による作業が必要  
 全体調査の区分: 黄



再生作業前

## 取組概要

対象面積: 100a(水田)  
 実施期間: 再生作業:平成21年12月～平成22年3月  
 栽培実証:平成22年6月～平成23年5月  
 取組のきっかけ: 島内では有効な換金作物が無く、農地が荒廃していたが、肉用牛生産における自給飼料について今後需要が見込まれる。耕作放棄地復旧後の耕作が可能となるための作業内容や費用について検証し、今後の復旧の確立を図るため、地区の代表的な箇所を実証ほとして選定し復旧した。  
 調整経緯: 協議会が適切な(主に大型機械が入る)耕作放棄地を決め、畜産農家と調整した。地権者からは容易に賛同が得られ、無償貸借とした。  
 取組主体: 海士地域耕作放棄地対策協議会 (栽培は(有)隠岐しおかぜファーム)  
 取組作物: 牧草等  
 作業内容: 雑草・樹木の刈払、抜根、排根、石礫除去、整地、耕起、施肥  
 実証状況: 土壌診断を行ったうえで、施肥設計に遵守した耕作を実施し、従来の栽培方法と収量を比較する。夏～秋作にスーダン(一部そば)を栽培中。冬～春作にはイタリアンを作付ける。  
 出荷先: 耕作者自ら飼養する肉用牛の自給飼料とする。

## 今後の予定

実証ほによって普及方法が明確になるため、今後飼料作物以外に耕作者が希望する作物においても取り組む。

## 再生状況



再生作業中(草刈)



ソバ栽培中



牧草栽培中(二番草)



実証ほの看板



再生作業後



牧草栽培中(二番草)



慣行(右)に比べ生育が良い

現状